

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

東員町地域公共交通会議 (東員町)

平成24年 7月 2日 設置

令和 3年 3月22日 東員町地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

令和 2年 7月30日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 4年 1月20日 令和3年度評価結果送付

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「オレンジバス」において、最寄りバス停・行き先・バスの位置等を検索できるアプリの運用を引き続き実施し、利用促進の取り組みを行った。 ・ケーブルテレビにおいてオレンジバスの整備や運行前点検の様子、新型コロナウイルス対策を特集し放送。また、バス車内への消毒液の設置、感染対策を記載した車体広告用マグネットシートを作成するなど、公共交通は安心安全な乗り物であることをPRした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる利便性向上に向け、各バス停にスマートフォン等で読み込むと、現在のバスの位置がリアルタイムで表示されるQRコードの設置を検討。 ・公共交通における新型コロナウイルス対策として、キャッシュレス決済の導入について検討。
<p>持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待。</p>	<p>令和2年度に「地域公共交通計画」を策定。</p>	<p>計画的に各種事業に取り組む。</p>

■地域の特性と背景

- ・人口25,784人 (R2国勢調査)。北部の住宅団地 (笹尾・城山地区) が人口の約5割を占め、高齢化が急速に進展。
- ・町の公共交通は三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス (三重交通、八風バス、三岐鉄道)、町運営のオレンジバス、タクシーで構成。
- ・「東員町地域公共交通総合連携計画」を平成25年6月に策定。平成26年10月からオレンジバスの再編を実施。平成28年10月から路線名称、ルート、ダイヤの一部変更を実施。
- ・令和3年3月に「東員町地域公共交通計画」を策定。



東員町 オレンジバス 時刻表

<p>料金は200円です。</p> <p>100 100</p> <p>1乗車までどこへ行っても200円です。お持ちの乗車券や回数券などもあります。</p>	<p>南北線と東部線の2種類の路線があります。</p> <p>南北線は2台のバス、東部線は1台のバスで運行しています。ダイヤは異なります。</p>
<p>朝夕便と昼便があります。</p> <p>朝夕便 6:00~8:00 昼便 8:00~17:00</p>	<p>年末年始だけお休みです。</p> <p>361日</p> <p>12月31日・1月3日だけ運休しています。そのほかの日は毎日運行し、ダイヤは異なります。</p>

公共交通が暮らしを支えるまち

東員町地域公共交通計画

令和3年3月 東員町

■東員町地域公共交通計画の概要

《基本理念》

「公共交通が暮らしを支えるまち」

町民、特に交通弱者が健康で活動的な生活を送るために、公共交通を利用して移動ができる環境を整備することで公共交通が町民の暮らしを支えるまちを目指す。

《基本方針》

- 1 未来につながる公共交通 (維持・活性化)
- 2 コネクトする公共交通 (交通結節点強化)
- 3 身近に感じる公共交通 (利便性向上)
- 4 魅力ある公共交通 (魅力発信・快適性向上)

《計画期間》

令和3年度～令和7年度 (5年間)

《公共交通ネットワークの形成方針》

東西方向は民間路線、南北方向はオレンジバスで機能分担

隣接する桑名市、いなべ市、四日市市への広域移動となる東西方向は、鉄道(北勢線)、路線バス(桑名阿下喜線)による民間事業者が対応し、これらに接続する端末移動及び町内移動となる南北方向は、オレンジバスが担うことにし、機能分担する。



取組	概要	特色等
地域公共交通計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針に基づき、9目標、21事業を位置付け。 	<p>今後の公共交通ネットワーク形成、事業の方向性を明確化。</p>
オレンジバス運賃体系及びダイヤの改正	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なコミュニティバスの仕組みを構築するため、令和3年4月から運賃を改定。 運転手の負担軽減、北勢線のダイヤとの調整のため、令和3年4月から南北急行線のダイヤ改正を実施。 	<p>大人運賃を100円から200円に改定するとともに、小人運賃(100円)を新設。 オレンジバスと鉄道の相互利用の促進のため、ダイヤの調整を実施。</p>
時刻表の刷新	<ul style="list-style-type: none"> 運賃及びダイヤ改定に伴い時刻表を刷新。 	<p>デザインを向上し、一目でバスの概要がわかるよう工夫した。</p>
おでかけ元気パス事業の実施(福祉部局との連携事業)	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月からの運賃改定に合わせて、高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進を目的に、提示するとバス運賃が半額になるパスを配布。 	<p>75歳以上の方に加え、65歳以上75歳未満で運転免許を返納した方も対象とした。</p>
車両更新	<ul style="list-style-type: none"> 車両老朽化のため、令和2年4月に南北線2台、令和3年4月に東部線1台の車両を更新。 	<p>車体の高さ調整ができスムーズな乗降が可能。また、車椅子で利用できるようになった。</p>
町の広報にオレンジバス特集を掲載(2020年12月号)	<ul style="list-style-type: none"> 運行に係る経費のほか、運賃改定、福祉施策、ダイヤ改正の情報提供及び車両の特徴、運転手さんの声などの特集記事を掲載。 	<p>運賃改定や車両更新、お出かけ元気パスの新規事業を効果的に周知するため、町内全戸に配布される広報紙を活用し、4ページにわたりわかりやすく情報提供。</p>

1 生活交通確保維持改善計画の目標とその結果(オレンジバス利用者数) 【達成状況：未達成】

※集計期間は令和2年10月～令和3年9月

年間利用者数	南北急行線	東部急行線	南北線	東部線	総合計
令和3年度実績	13,103	2,244	55,545	9,200	80,092
令和2年度実績	15,000	2,585	56,202	10,057	83,844
目標	14,000	2,600	55,500	18,800	90,900
増減 (R3/R2)	87.4%	86.8%	98.8%	91.5%	95.5%
目標達成率	93.6%	86.3%	100%	48.9%	88.1%

《分析・評価》

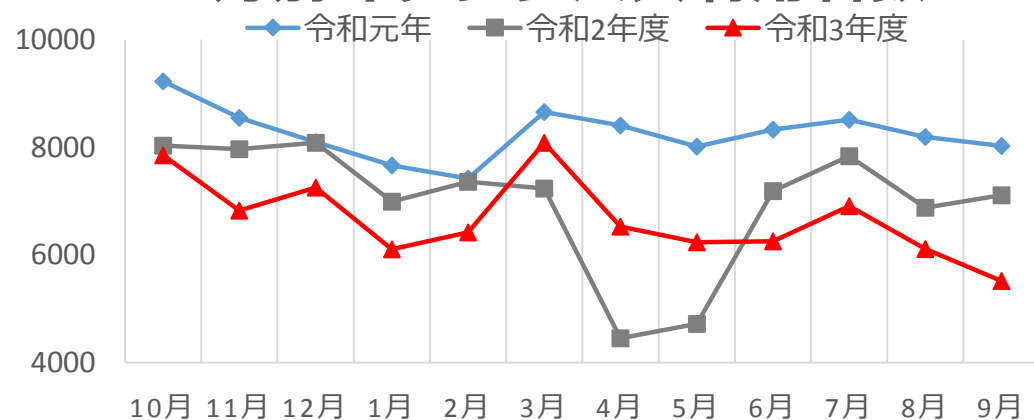
・ **新型コロナウイルス感染症の影響** (令和3年8月27日から令和3年9月30日、三重県下に緊急事態宣言発令) に加え、**令和3年4月から運賃を改定したことによる利用控えにより、令和2年度に比べ利用者は5%程度減少。**

・ 特に東部線において目標値との乖離がみられ、日常の買い物、診療所への移動手段としての利用が減少したことが要因と考える。

《今後の方針》

キャッシュレス決済の導入による利便性の向上により既存利用客の回復を図り、また観光分野との連携により新規顧客の獲得の両方向から、Withコロナに向けた利用者増加の取り組みを推進。

月別オレンジバス利用者数



2 東員町地域公共交通計画の関連する目標とその結果

【基本目標 1 - 2】 バス、タクシーの維持・活性化 ※集計期間は令和2年10月～令和3年9月

項目	計画時 (R2)	目標	実績 (R3)	達成状況
バス年間輸送量※1 桑名阿下喜線	38.0人/日	増加	35.3人/日	未達成

【基本目標 2 - 1】 交通結節点の利便性向上 ※集計期間は令和2年4月～令和3年3月

項目	計画時 (R元)	目標	実績 (R2)	達成状況	
鉄道駅乗車人員	東員駅	184,604人	増加	139,089人	未達成
	穴太駅	126,968人	増加	102,401人	未達成
	北勢中央公園口駅	104,337人	増加	81,225人	未達成

【基本目標 4 - 2】 公共交通の魅力発信 ※集計期間は令和2年10月～令和3年9月

項目	計画時 (R2)	目標	実績 (R3)	達成状況
利用促進活動	0回	2回以上	2回	達成

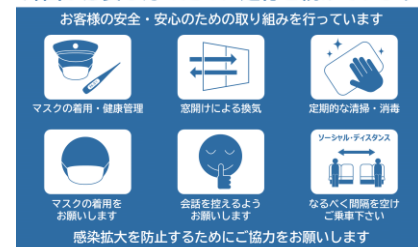
《分析・評価》

広報紙へ特集記事の掲載、ケーブルテレビでの特集番組の放送、車体広告用マグネットシート作成をするなどし、**新型コロナウイルス感染症対策をPRするとともに、公共交通の魅力発信に注力したことを評価。**

《今後の方針》

本町において東員駅を含むエリア一体のまちづくりを推進しており、サッカーとタイアップしたイベントなど、**東員町へ訪れたい目的をつくること**がバスや鉄道の利用者を増やすことにもつながると考える。今後一層、観光分野との連携を図ることで利用者の増加へ繋げる。

外出が必要な方のために運行を続けています



やむを得ない場合はプレーキや急ハンドル等の使用、危険です。必ずシートベルトをお付け下さい。乗車中に手洗いをお願いします。

課題	対応方針	取組
<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症及び運賃改定による利用控えへの対応 ・高齢者等への利用促進 ・Withコロナ対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○おでかけ元気パス事業の周知 ○バス検索アプリを活用した利便性向上の取り組み ○キャッシュレス決済の導入について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集まりなどで、おでかけ元気パス事業をPR。 ・各バス停にスマートフォン等で読み込むと、現在のバスの位置がリアルタイムで表示されるQRコードの設置を検討。 ・JPQRの導入を検討。
<ul style="list-style-type: none"> ○交通圏内の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な地域公共交通ネットワークを構築し、交通体系全体で人々の移動の利便性を向上させる ○広域移動を意識した公共交通ネットワークの構築、運行ダイヤの調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジバスについて鉄道、路線バスとの乗継のさらなる利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整を行う。 ・交通圏内の自治体（いなべ市、桑名市）との協働による利用促進施策の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○町の陸上競技場をホームスタジアムとして活動するサッカーチームとの連携など、観光と公共交通の関係を深めることで、目的づくりによる公共交通の利用促進に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において公共交通利用促進をPR。 ・サッカー観戦者が公共交通を利用してスタジアムへ来場するよう、サッカーチームと連携した取り組みを実施。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月18日

協議会名: 東員町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国保補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
八風バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ●昼便 南北線 城山・笹尾、笹尾・城山系統 東員駅～サンパーク～ 一号館～いなべ整形外科 ～東員駅 三和・稲部、稲部・三和系統 東員駅～稲部小学校～ 北勢中央公園口駅～東員駅 	<p>前回の評価では、町民やバス利用者に対するアンケートや、ワークショップを開催するなどし、利用者ニーズ等の把握に努めていることを評価していただき、持続可能な公共交通サービスを実現するための計画策定を期待された。</p> <p>この評価を踏まえ、令和2年度に東員町地域公共交通計画を策定し、各種事業を推進。持続可能なコミュニティバスの仕組みの構築として運賃改定を実施するとともに、小人運賃の新設や高齢者のお出かけを促進する「お出かけ元気バス」による割引を新しく実施。</p>	<p>補助対象期間の開始日以来、計画どおり適切に実施されている。</p> <p style="text-align: center;">A 評価</p>	<p>以下の目標を設定したが、平均で96.8%の達成率となった。</p> <p>現在、南北線、南北急行線ともに昨年度水準に回復しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、令和3年4月から運賃を改定したことによる利用控えが、目標を達成できなかった要因と考える。</p> <p>目標と達成率 南北線(目標値:55,500人) 【実績】55,545人 【達成率】100% 南北急行線(目標値:14,000人) 【実績】13,103人 【達成率】93.6%</p>	<p>左記の結果を踏まえ、地域公共交通計画に位置付けた事業を推進する。特に、次の取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おでかけ元気バス事業の周知 ○バス検索アプリを活用した利便性向上の取り組み ○キャッシュレス決済の導入 ○広域移動を意識した公共交通ネットワークの構築、運行ダイヤの調整 ○観光分野と公共交通の連携強化による、公共交通の利用促進

三岐鉄道㈱	●朝夕便 東部急行線 ネオポリス～穴太駅～ 北村地藏南～ネオポリス	上記の取組を実施。	A 評価	補助対象期間の開始日以来、 計画どおり適切に実施されてい る。	B 評価 以下の目標を設定したが、平 均で86.3%の達成率となった。 現在、東部急行線は昨年度水 準に回復しつつあるものの、新 型コロナウイルス感染症の影響 に加え、令和3年4月から運賃を 改定したことによる利用控えが、 目標を達成できなかった要因と 考える。 目標と達成率 東部急行線(目標値:2,600人) 【実績】2,244人 【達成率】86.3%	上記と同様
	●昼便 東部線 東員駅～念仏橋～穴太駅～ ネオポリス～穴太駅～東員駅	上記の取組を実施。	A 評価	補助対象期間の開始日以来、 計画どおり適切に実施されてい る。	B 評価 以下の目標を設定したが、平 均で48.9%の達成率となった。 東部線における目標値との乖 離については、日常の買い物、 診療所への移動手段としての利 用が減少したことが要因と考え る。 目標と達成率 東部線(目標値:18,800人) 【実績】9,200人 【達成率】48.9%	上記と同様

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月18日

協議会名:	東員町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国保補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【地域の概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口25,784人(令和2年国勢調査)。北部の住宅団地(笹尾・城山地区)が人口の約5割を占め、高齢化が急速に進展。 ・町の公共交通は三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス(三重交通、八風バス、三岐鉄道)、町運営のオレンジバス、タクシーで構成。 ・「東員町地域公共交通総合連携計画」を平成25年6月に策定。平成26年10月からオレンジバスの再編を実施。平成28年10月から路線名称、ルート、ダイヤの一部変更を実施。 ・令和3年3月に「東員町地域公共交通計画」を策定。 <p>【地域の公共交通の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第6次東員町総合計画 <ul style="list-style-type: none"> 《目指す姿》交通弱者が公共交通を利用して移動ができています。 ■東員町地域公共交通計画 <ul style="list-style-type: none"> 《基本理念》「公共交通が暮らしを支えるまち」 《基本方針と基本目標》 <ol style="list-style-type: none"> 1 未来につながる公共交通 <ul style="list-style-type: none"> 基本目標1-1 鉄道の維持・活性化、基本目標1-2 バス・タクシーの維持・活性化、基本目標1-3 持続可能な仕組みの構築 2 コネクトする公共交通 <ul style="list-style-type: none"> 基本目標2-1 交通結節点の利便性向上 3 身近に感じる公共交通 <ul style="list-style-type: none"> 基本目標3-1 オレンジバス再編、基本目標3-2 新たな移動形態の研究・実現推進 4 魅力ある公共交通 <ul style="list-style-type: none"> 基本目標4-1 外出支援、基本目標4-2 公共交通の魅力発信、基本目標4-3 快適性の向上 <p>【事業実施の目的・必要性】</p> <p>本町では、オレンジバス及び鉄道を使って桑名・四日市・名古屋・いなべ方面への通勤、通学の移動手段を確保するとともに、町内外のスーパーや診療所へのアクセスとして、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(オレンジバス)を組み合わせることにより、地域公共交通の構築を進めている。今後も、公共交通機関相互の連携を強化しながら、利便性の高いネットワークを形成するため、本事業を継続して実施する必要がある。</p>